

次の10年の存続を願って  
教育学科の会は変わります。

## 葦

人間は「自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。しかしそれは考える葦である」として、人間の、自然の中における存在としての弱さと、思考する存在としての偉大さを言い表したもの。



# 理事会より重大なお知らせ

70周年の今年、教育学科の会(以下「当会」)は未曾有の存続の危機を迎えております。「葦」配布中の卒業生の会費未納者が9割に迫り、在学生や新規卒業生からの会費徴収も今後急速に困難になることが予想されます。(後述「Q & A」参照)

この現状を、時代の流れや会員の皆さまの意思ととらえて衰退→解散へ向かうのか、あるいは同窓会員相互の交流の場、生涯学習支援の場として、この会を大切に思ってくださいの方々のために、できる限りの運営努力を続けて行くべきか? 理事会では、学科との意見交換も行いながら議論を重ねた結果、現時点では後者を選びました。そして、「存続に向けて、現状やれることは全部やる!」との決意のもと、以下の思い切った改革を実施することにいたしました。

皆さまのご理解とご協力を、切にお願い申し上げます。



## 理事会への疑問 Q & A

**Q** 在学生や新規卒業生の会費が急激に減少するとの予測の根拠は?

**A** コロナ禍をきっかけに、経済的に困窮する在学生が増加。会費の見直しが進行中です。また、個人情報保護法に対する考え方の厳格化が進み、新規卒業生の本会員への移行も、学科中央研究室を通して情報を取得して自動的に行うという、現行の会則に記載されている従来の形式が、難しくなっているからです。  
※他学科も同様の流れになりつつある模様。

**Q** 会員の個人情報は、どのように管理されているのか。配送業者などには、どのように情報を送っているのか?

**A** 当会は平成28年より、個人情報の保護に関する法律に基づき、取得した情報を適切に管理して参りました。(詳細はHP掲載の会則内「個人情報の取り扱いについて」参照。)

そして2年前から、お預かりした会員情報は、クラウド型顧客管理システム

「Zoho CRM」を提供する外部業者に委託して管理しております。

名簿の管理を業者委託にした理由は、約5600人にのぼる卒業生(葦の発送者だけでも3500人)の情報を、変化に応じて書き換えながら正確安全に管理するのは、紙や個人のパソコンで行うにはリスクが高すぎると判断したからです。

外部業者への委託については情報漏洩やデータの喪失を心配する向きもありますが、近年クラウド提供会社は特にセキュリティ面に力を入れているため、紙や個人のパソコンでの管理に比べて、はるかに安全性や安定性が高いのが現状です。

現在このシステムにアクセスできるのは、理事の中でも会員情報や葦の発送を担当する限られた数名のみで、誰がいつシステムにアクセスしたかはシステム提供会社の担当者を含めて記録に残るために、責任の所在も明確になります。

そして当会は、システム提供会社、葦の発送や会費納入に関わる外部業者全てと秘密

保持契約を締結し、個人情報を委託する範囲を、その会社に依頼する業務に限定して行なっております。(クラウド型顧客管理システムは、そうした抽出が厳密に行えます)

ちなみに、同窓会幹事より名簿のご請求が当会にあった場合、名簿の形ではなく宛名ラベルでお渡ししております。それは、使用範囲を限定しないと、このシステムの外にデータを出せない仕組みになっているためです。

配送業者等への情報供与も、同様に厳密に管理されているとお考えください。

**Q** 「葦」がデジタル配信になると、会費振込用紙はどうなるのか?

**A** 来年度から、配信時のメールに振込口座をご案内させていただきます。それにより、振り込み用紙の作成や送付にかかる費用の削減にもなりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。尚、まことに恐縮ですが振込手数料はご負担くださいませ。

## ボランティアのお願い

現在の理事会の卒業生理事は、副会長や監事を含めて総勢11名です。高齢化も進み、実務を担える人材が不足しております。特に、デジタルや経理会計のご経験が少しでもある方、あるいは今は実務経験はないがそうした方面に興味はあるので、手伝っても良いという方も含めて急募中です。HPの情報更新などは、業者からマニュアルの提供もごさいます。この改革に必要なのは、新しい風を吹かせてくれる新しい人材です。是非ともお力をお貸しください。

※理事会・専門分科会は、この先もリモートで行いますので、遠方の方でも問題なくご参加いただけます。また、仕事を持つ理事も多いため、実務に関する会議はほぼ夜間に行い、効率よく進めております。幅広い年代のご参加、大歓迎です。

## 「葦」のデジタル配信を促進します！

これまで年2回皆さまのお手元にお届けしてきた会報誌「葦」ですが、印刷・発送にかかるコストが重い負担になっております。そのため順次デジタル配信への移行を実施します。

※学生会員には学科のご協力を得て、今回すでにJASMINE-Navilにて配信されております。

「冊子版の葦は送らなくても良い」という方は、同封ハガキの「葦送付を希望しない」に必ずチェックを入れてください。または下記QRコードにアクセスしてください。ホームページの会員登録に繋がりますので、そこからも同様のお手続きが可能です。

(パソコンでの登録をご希望の方は「日本女子大学教育学科の会」でご検索ください。) その際、デジタル版の配信のためにメールアドレスのご記入を、是非ともお願いいたします。



尚、会費未納の方への葦の発送は、来年度より段階的にストップして参ります。詳細なスケジュールは次号からの葦に掲載いたします。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

## 「徹底した経費の見直し」を行っています！

- ・コロナ禍で定着したZoom会議で会議費を大幅に軽減。今後も継続します。
- ・会計関連担当理事たちによる分科会議を、この夏から実施中。徹底した経費の見直しで削減をはかり、決算書の項目の見直しで来期からの会費の使途をより明確にします。

## 「会則改正」を行います！

当会は通常と同窓縦の会と違い、成り立ちから学科との強い協力体制で運営されて参りました。そのためにかえって学生会員の会費の徴収や管理なども長年学科にお任せしたままになり、卒業生理事には実態が分かっていなかったことも少なからずありました。またここ数年は、学科の目白への引越越しにコロナ禍が重なったことで、会計手続きの遅れなども生じておりました。その結果、今年になって一部の会員に理事会の運営に対する誤解と不信が生まれ、当理事会は かつてない苦境に立たされる事態となりました。けれどもそれを機に、学科・理事会双方が今まで慣習として行ってきた業務を見直し、平成8年から改正されないまま、時代や実状に合わなくなって来ていた会則を改正しようという動きが生まれました。そこで、卒業生・在校生・教員の代表者と、法律の専門家も加わった会則ワーキンググループが発足しました。現在、在学生や若い世代を含めた幅広い世代に受け入れられる、透明性が高く持続可能な会を目指して審議を進めております。来年5月の総会での承認を経て、施行の予定です。

## 「ホームページ」をリニューアルします！

デジタル化の促進に向けて、2023年1月20日よりホームページをリニューアル予定です。スマホやタブレットでも画面が見やすくなり、またセミナーのお知らせや理事会報告、最新の情報や葦のバックナンバーに「パスワード入力なし」でアクセスできるようになります。

## 「オンラインセミナー」を開催します！

メールアドレス登録をいただいた会員の皆さまには、「葦」の配信の他、学術的なテーマだけでなく、在学生や働き盛り世代を意識した、より実用的なテーマを含む多彩なオンラインセミナーを企画し、その参加者募集などの情報をメールマガジンで提供して行く予定です。会費納入者は何度でも参加無料です。未納の方は、ご案内メールに振込情報が記載されておりますので、納入をお願いいたします。セミナーはZoomで開催。Zoom未経験者には参加方法の説明付き。ご参加にはスマホ・タブレット・カメラ機能付きパソコンのいずれかが必要です。

### 今後予定されているオンラインセミナー

就活のためのメイク・ファッション・オンライン面接攻略法  
(企業編・教職編)

声と顔が10歳若返り内臓も元気に!

表情筋と声帯トレーニングを融合した「フェイスリフティングボイス」家庭画報他での人気講座。清水由香講師による直接指導。

進路選択・就活・再就職・人生の転機に役立つ

「自分を知るためのトラハニチャート」  
初回は12月9日「懇話会」にて実施。好評につき第2弾を検討中

※講師の方々には、ボランティア価格の謝礼でご協力いただいておりますが、講師の自薦他薦を含む、会員の皆さまの企画へのご協力もお待ちしております。



# 会長就任のご挨拶



教育学科教授  
今井 康雄

井上信子先生の会長辞任に伴い、思いがけず本会の会長の任を担うことになりました。

2023年3月には定年退職となりますので、半年のみの「ピンチヒッター」ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本会は現在様々な課題に直面しています。その多くは一朝一夕に解決できる類いのものではありませんが、課題解決に向けての方向性だけでも任期中に確認できればと考えています。その際に基本に置くべきは、やはり、本会が長年にわたって作り上げてきた卒業生と在学生とのタテのつながりです。このタテのつながりは、教育学科にとつての貴重な財産です。直接的には実感できにくいかもしれませんが、長い目で見れば、日本女子大学教育学科で学んでいるということ、学んだということのメリットを支える不可欠の部分になっていると確信しています。そうしたなかなか目に見えにくいメリットを、より実感できるものにして行ければと思います。

このたび理事に就任された齋藤慶子先生とともに、会の一層の発展のために尽力したいと存じます。会員の皆さまのご協力をお願いする次第です。

## 提言

# 教育と社会をつなぐ「教育学科の会」

教育学科長／教育学科教授 田中 雅文

現行の学習指導要領の理念は「社会に開かれた教育課程」です。それを実現するための文部科学省の政策の一つが「地域学校協働活動」の推進です。そして、学校教育で学んだ子どもたちには、「持続可能な社会の創り手」となることが求められています。つまり、現代の、そしてこれからの学校教育は社会と関係すること無しには成り立たず、社会をよりよい状態へと変革し再創造する人を育てることが期待されているのです。「社会とのつながり」が現代の学校教育のキーワードです。

一方、社会そのものに目を転じるならば、企業も公共機関も、当然のことながら職員の力量向上無しには発展できません。目まぐるしく変化する社会経済環境で生きていく私たちは、常に新たなことを学び、吸収していくことが必要になっています。身近な地域社会を見ても、行政施策への住

民の参加や協働が当たり前のように唱えられ、ここでも住民の学びが必須の課題となっています。

以上のように、教育(学び)と社会とのつながりは急速に強まっています。教育学科のカリキュラムは、今後ますます社会との関係を視野に入れながら発展していくことが期待されます。教職課程、社会教育主事(社会教育士)課程といった資格教育課程は、とくにその必要性が高いといえるでしょう。

しかし、我々教員の限られた力量とネットワーク、そして持ち時間だけでは、とうていそのニーズに応えることはできません。そのため、社会の中で活躍されているOGの方々のご助力に期待したいのです。企業、学校、公共機関、あるいは地域社会など、さまざまな場で困難を乗り越え、新しい価値を発信し、成果を生み出してこられたOGの方々の経験は、学生たちの学びに新風を吹

き込み、社会に視野を広げた知見を培うための大きな支えになるに違いありません。もちろん、これまでも学縁の集いなどを通して、お世話になってきましたが、これからはそれ以上に多様なプログラムが必要だと思っています。

ぜひとも、教育学科と社会、学生と社会をつなぐため、これまで以上にOGのお力を頂きたいです。そのための新しい仕組みを創っていくことが、これからの「教育学科の会」と教育学科の重要なテーマではないかと考えています。



## 第61回大会・臨時総会の報告

副会長 浦野 敬子 (25 回生)

第61回大会が5月28日(土)にオンラインにより開催されました。

第1部総会は会長挨拶に始まり、令和3年度事業報告、各部報告、決算報告、役員改選、令和4年度事業計画、予算が議案に従って承認されました。また、教育学科の会奨励賞が、清永奈穂さんに授与されました。

第2部の学縁のつどいでは、公立小学校教諭の卒業生とイギリスに留学中の卒業生のお話を伺いました。

8月4日(木)、井上信子先生が会長を辞任されました。それに伴い、9月3日(土)にオンラインで臨時総会が開催され、会長は今井康雄先生、研究室委員に齋藤慶子先生、総務部長に櫻井慶子さん(29回生)が選任されました。

## 理事就任のご挨拶

教育学科准教授 齋藤 慶子

今井康雄先生の会長就任に伴い、「二度目の理事」に就任することになりました。

変革の時の「教育学科の会」の課題に、卒業生と学生をつなぐ役割を強く認識して、共に向き合っていきたいと思います。

「一度目の理事」は、本学に着任したばかりの2015年度から2018年度までの4年間でした。その間に、私が大学で担当していた授業「プロジェクト実践演習II」の取組みに、「教

育学科の会」には大きなご貢献をいただきました。この授業では、学生たちが、講演会を企画・立案し、運営に携わる中で、本学の建学の精神である「自学自動」の学びを体得することを目指していました。講演会は、「教育学科・教育学科の会共催」で西生田キャンパス学園祭(日女祭)のときに開催され、卒業生との直接の関わりの場の一つとなっていました。講演会では、毎年、学生が考案した記念のグッズを配布していたので

すが、グッズ作成にあたっては、ときに、学生が卒業生の方々の前でプレゼンをするということもありました。

こうして少しずつ積み上げていた、「今の学生」と「卒業生」とのタテの繋がりをとぎれさせることなく、そして、「革新のないところには歴史は紡がれていかない」という思いを胸に、変革の時をともに歩んでいきたいと思います。

## New Teacher

## 新任の先生ご紹介

教育学科准教授 榎本 聡先生

### 簡単に経歴をお願いします

東京都出身。東京工業大学を卒業後、東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻に進学しました。2年間の修士課程を修了後、引き続き3年間の博士後期課程を修了し、2001年3月に博士(工学)を取得しました。その後、文部科学省に置かれた施設等機関である国立教育研究所(その後、国立教育政策研究所に改組)に勤務し、教育の情報化に関する研究に従事してきました。2021年4月に、日本女子大学に着任しました。

### ご専門について教えてください

専門は「教育工学」です。その中でも、ICT活用教育を中心に研究をしています。最近では、GIGAスクール構想による1人1台端末の効果的な活用、プログラミング教育、教育データの利活用について関心を持っています。



### 日本女子大学(または教育学科)の学生の印象はいかがですか

2010年より、非常勤講師として「教育方法・技術」の授業を担当してきましたが、その当時よりすごく真面目な学生が多いという印象を持っています。数多くの授業を履修し、課題もたくさんあると考えて、私の授業の課題は「数行程度の簡単な

ものでかまいません」と言うのですが、皆さん枠内にびっしりと記入して提出してきます。

### 先生の趣味を教えてください

ダイビングが好きで長年続けています(着任してからは行くことができていませんが…)。スキルアップを進めた結果、ガイドとしてお客さんを連れていくことができる資格を持っています。

### 学生に向けてのメッセージやアドバイスをお願いします

大学時代は、まとまった時間を作ることができる絶好の機会です。コロナ禍で自由な行動がなかなか厳しい状況ですが、いろいろな経験をしていただきたいと思います。どんなことでも、その後の人生に必ず意味があります。

# 奨励賞を受賞して

## 子ども達の豊かな未来につながる

### 安全教育カリキュラムの構築を目指して

日本女子大学学術研究員 清永奈穂

この度は「教育学科の会 奨励賞」という大変栄誉ある賞を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。この受賞は、6年間もの長い博士課程後期課程在籍中、論文等に関しましてご指導いただきました教育学科の先生方、励ましてくださった大学院生、大学生の皆様のお陰でございます。皆様方に改めて深く感謝申し上げます。

私は、本大学院に入学する以前より、事件や事故、災害等によって人々が理不尽に命を奪われることなく安全に生きてゆくために、そして安心して住み続けることのできる地域社会を次世代に繋げてゆくことを目指し、全国各地の事件・災害現場でのフィールドワークや、学校での授業、自治体との市民意識調査等協働研究等を、細々とですが行って参りました。幸いなことに、研究の結果生み出された方法を実際に学校現場や自治体で実践し検証、修正し応用していくという機会にも恵まれました。

これらの小さな研究や実践を積み重ねていくうちに強く思い始めたことは、犯罪や災害から町や人を守るには、遠回りのようでも「人づくり」が最も重要だ、ということでした。倒れない塀、防犯カメラ、ガードレール等物理的な環境設計は勿論大切です、大人の見守り等社会全体で地域を見守るということも当然です。しかしこうしたことは「自分や誰かのために私自身が最良の方法を選び決定、実行し、最終的には自身や他者の命に責任を持つ」という大人力を持つ人がいて、初めて実現するという、至極当然のことに気づきました。気づかせてくれたのは、全国各地で出会った多くの子ども達、無償で地域に貢献するボランティア、そして事件や事故の現場で未だ悲しみ苦しみに佇むご家族や地域の方々でした。

そこで、日本女子大学総合研究所市民安全学研究センターの研究員(2006~2011年在籍)として作成に携わった子どもの安全教育カリキュラムを、発達段階に沿って改めて再構築し、安全教育を通して自助・共助・公助の力を育て、安全な社会を時代に繋いでいきたいという思いで、本学で地域安全マップ等の研究をされていた田部俊充先生

の研究室の扉をたたきました。ただ、安全基礎体力(体力+危機への知恵知識+コミュニケーション力+大人力)と社会性を育てるための効果的な体験型安全教育プログラム作りは、学校での授業と事前事後調査、ボランティアや保護者、警察官等への調査、英国教育省や体験施設での実査、科学的根拠を得るための元犯罪者との実験等様々な方法を積み重ねる必要があります、6年かけてやっと、「犯罪から子どもを守る安全教育指導プログラムの開発とその効果に関する基礎的研究—小学校における体験型安全教育の構築を目指して—」と題し博士論文の提出ができませんでした。

論文執筆にあたり、田部俊充先生には御多忙なお時間の中をご指導ご鞭撻いただきました。田中雅文先生、山下絢先生には、論文の骨子、統計等幾度も学問の基本から教えて頂きました。寺本潔先生(玉川大学教授)、吉田和義先生(創価大学教授)、そして学科の先生方のご助言が気づきと心の支えとなりました。

博士論文執筆中に世界中で感染症が広がり、さらに終わりの見えない戦いが起こるとは想定しておらず、一大人としてこうした事態を招いてしまったことに私自身責任を感じています。一方で危機は人を大人へと育てていくものであり、今こそ安全教育を実践していくことが次の安全社会へとつながっていくと信じています。成瀬仁蔵先生の「使命を見いだして前進する」のお言葉通り、就学前から高校までの一貫通貫した安全教育カリキュラムの実現は私に課せられた使命です。受賞を励みに本使命を全うしてまいります。

助けて!  
と駆け込み  
110番する  
練習



安全体験施設での安全教室の様子



英国教育省安全教育担当官へのヒアリングの様子



あぶないと思った時の20メートルダッシュ練習

日本女子大学教育学科の会  
 令和3年度決算書(令和3年5月1日～令和4年4月30日)  
 令和4年度予算書

項目	令和3年度			令和4年度
	予算	決算	差額	予算(案)
会費	3,249,500	4,356,482	1,106,982	3,529,500
受取利息		20	20	
ゆうちょ振替専用口座		5,450	5,450	
収入の部合計	3,249,500	4,361,952	1,112,452	3,529,500

支出の部

項目	令和3年度			令和4年度
	予算	決算	差額	予算(案)
奨励金	0	0	0	30,000
印刷費その他				
人間研究(450部)	300,000	148,500	151,500	300,000
会報「葦」(送料・会報発送委託費含む)	1,800,000	1,748,515	51,485	2,000,000
名簿データ管理料	300,000	293,040	6,960	300,000
行事運営費				
大会	130,000	0	130,000	130,000
懇話会	100,000	45,278	54,722	100,000
ホームカミングデー	100,000	0	100,000	100,000
理事会等運営費(会議費)	30,000	0	30,000	30,000
活動費				
研究室委員会	110,000	74,724	35,276	170,000
学生委員会	60,000	0	60,000	60,000
回生委員会	30,000	1,060	28,940	29,000
総務部	80,000	0	80,000	80,000
会計部	10,000	1,350	8,650	10,000
会員部	8,500	5,854	2,646	6,500
庶務部	18,000	6,610	11,390	13,000
文化部	18,000	2,778	15,222	10,000
会報編集部	60,000	36,160	23,840	60,000
送料・通信費	10,000	22,445	-12,445	15,000
事務・消耗品費	10,000	35,950	-25,950	10,000
雑費(卒業生ボールペン代)	10,000	0	10,000	10,000
HP(サイト保守・レンタルサーバー代・ドメイン使用料)	65,000	65,588	-588	66,000
支出の部合計	3,249,500	2,487,852	761,648	3,529,500

令和3年度収支差額	1,874,100
前年度からの繰越金	3,089,996
次年度への繰越金	4,964,009

上記のとおり報告いたします。

教育学科の会 会長 井上信子  
 会計 野田エリ

令和4年5月28日

上記について慎重に監査した結果いずれも適正かつ妥当なものと認めます。  
 監事 古戸のぶ子 吉賀真理子

※令和3年度決算書収入補足説明

令和3年度決算書収入の会費には令和3年度だけでなく、令和2年度、4年度の学生入会金や学生会費が含まれる。(これらが令和4年度4月末に一度に振り込まれたため会計年度の関係から。)

令和4年度 教育学科の会 理事

会長

今井 康雄 (教育学科教授)

副会長

浦野 敬子 (25)

大森 桃子 (26)

研究室委員会

齋藤 慶子 (教育学科准教授)

回生委員会

委員長 萩野 厚美 (25)

総務部

部長 櫻井 慶子 (29)

会計部

部長 野田 エリ (39)

会員部

部長 松尾 里羽子 (31)

庶務部

部長 杉山 京子 (27)

会報編集部

部長 石井 美奈子 (38)

文化部

部長 中込 知野 (37)

3年生学生委員

丹野 真菜[委員長]、清藤芽衣[会計]、

石原 知佳[広報]、延家欣[広報]、

加藤 梨乃[運営企画]、

杉美鈴アリーナ[運営企画]、

徳差 莉央菜[運営企画]、

宮崎 絢音[運営企画]、

村上 理子[運営企画]

★名前の後の[ ]は学生委員会内での役割です

監事

吉賀 真理子 (30)

★名前の後の(数字)は回生

NEWS

回生委員会からのお知らせ

回生委員の皆様へ



なかなか回生委員会が開催できておらず申し訳なく思っておりますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。次回回生委員会の開催につきましては、回生委員の皆様へ後日別途お知らせしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

\* 回生委員を交代される方は新役員の[氏名、回生、住所、電話番号、メールアドレス]を同封のはがき表面下欄にご記入ください。

\* まだメールアドレスをお知らせ頂いていない方は、右記QRコード(ホームページの会員登録に繋がります)からぜひメールアドレスをお知らせください。今後、連絡方法として活用したいと考えております。ご協力宜しくお願い致します。

\* ご不明な点がございましたら、回生委員長・萩野までご連絡ください。



萩野(25回生)TEL・fax 0467(83)4054

# Postcard Corner

会員のひろば

POST BOX

**Card.1** 学科が目白に移られたこと、とても嬉しく存じます。年なりには元気なつもりですが、今年は92歳になります。まだ杖は使用しておりませんが自由に外出することは控えております。本学に学んだことを誇りに思っております。  
(4回生 東京都)

**Card.2** 今年90歳。長生きしていると色々な事に出会うものです。ウクライナの惨状が報じられていますが、東京も米国の空襲で焼け野原になったのを知っている人は少なくなっただけでしょうね。ウクライナの復興を祈っています。  
(5回生 東京都)

**Card.3** 54年間ほどラボパーティーというものをやっております。現在リウマチで跳んだりねたり走ったりできなくなりましたが、大学生をアシスタントにして1歳～大学4年生の子ども達と言葉・物語・交流の三本柱を大切に楽しんでいます。コロナで国際交流は中止でしたが、2022年夏は交流実施の予定。ウクライナの戦争が一刻も早く終わることを祈りながら。  
(11回生 藤原 康子)

**Card.4** 懇話会の報告、とても興味深く読みました。今更ながら成瀬先生のことを知らなかったと痛感した次第です。  
(12回生 神奈川県)

**Card.5** 月曜から金曜までフルタイムで働いている上に、民生委員を引き受けました。忙しいですが充実しています。少しでも人のために働く、役に立つということは何よりうれしいことです。  
(26回生 東京都)

**Card.6** 大学とのつながりを持っていくと教育学科の会費はずっと納入しています。納入する方が増えますように。なかなか大学には行けませんが、オンラインの会になるとのこと。パソコン等、IT機器は苦手ですが、ちょっと挑戦してみようかな。(子どもの力を借りないと難しいですが・・・)  
(26回生 香川県)

**Card.7** 孫育ての世代となり、教育学科で学んだはずなのに、対応に右往左往している迷えるバアバです。もう一度学び直したい心境です。  
(29回生 Y・S)

**Card.8** ボランティアで行っている素話などのおはなし会が少しずつ再開されるようになりました。勉強会に参加する「張り合い」も強くなりました。健康に留意して楽しみます。  
(33回生 竹内 さち子)

84  
en

APPROVED

Postage Stamp

編集後記

ドイツの冬の行事、聖マルティン祭では自分達も暗い世に明るい灯を灯すことができるという思いを込めて、子供達がランタンを持って練り歩きます。戦火が近いウクライナ、この灯りが少しでも届くよう願って歩きました。

(佐野加奈子 59回生)

小学校のボランティアをしています。一人一台タブレット、電子黒板、欠席の児童のオンライン授業、プログラミング授業に動画編集等々。子どもの順応もすごいけれど、先生方の努力もすごいと感心しました。

(星野ひろみ 37回生)

秋の軽井沢。真赤なもみじが綺麗でした。リニューアルした「葦」のもと、先輩方も若い方も一緒に素敵な教育学科の会を盛り上げていきたいと思えます。

(天野正子 36回生)

今回の「葦」は例年の発行日からずいぶん遅くなってしまう、申し訳ありませんでした。「持続可能な」教育学科の会でありませう、これからも皆さまのご参加をお願いいたします。

(石井美奈子 38回生 会報編集部長)

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

## 「葦」の送付を希望しない方へ

同封のハガキがメールで意思表示をお願い致します。「葦」の送付を望まない「デジタル版でよい」という方は同封ハガキの( )送付を希望しないにチェックか〇をお忘れなく！または、インターネット検索かハガキのQRコードから、日本女子大学教育学科の会HPにアクセスして、会員登録の「葦送付について」の選択を、「希望しない」にして送信ください。ハガキ、インターネット共に、メールアドレスも忘れずにご記入ください。なお、引き続き「葦」の送付をご希望の方は連絡は不要です。